

履歴書及び教育研究業績書の記入要領

2025年5月

静岡県立大学短期大学部

本学の教員採用に係る応募書類のうち、履歴書及び教育研究業績書については、大学等設置認可申請書様式第4号を参考に作成した。このため、大学等設置認可申請書様式第4号のうち、「（その1）履歴書」及び「（その2）教育研究業績書」について文部科学省作成の文書や一般財団法人日本開発構想研究所が作成した記入要領を参考に、本記入要領を作成した。

以下、**太字**で示されているのは、文部科学省作成の文書に直接出典があるものであり、**細字**で記されているのは、それらについての一般財団法人日本開発構想研究所の解説からの引用である。さらに、本学独自の記載について**斜体**で示している。

履歴書及び教育研究業績書の記入要領

Ⅰ「履歴書」

1. 「氏名」欄

- ① 「氏名」の欄については、印鑑登録証明書（印鑑登録証明書を有さない者については、旅券（パスポート））の記載と同じ氏名を記載してください。旧姓等の通称名を使用している場合は、（ ）書きで本名を併記してください。
（記載例：通称名が山田太郎、本名が田中太郎の場合・・・【山田（田中）太郎】）
- ② 略字等を使わず、印鑑登録証明書等に記載されている表記で氏名を記入してください。
- ③ 外国籍の方は、パスポートに記載された表記で氏名を記入してください。

2. 「生年月日（年齢）」欄

「生年月日（年齢）」の欄の年齢には、当該募集の採用予定日における満年齢を記入してください。

3. 「現住所」欄

都道府県市町村名番地を印鑑登録証明書等に記載されている表記で記入してください。

4. 「学歴」欄

- ① 高等学校卒業及び大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴（大学の別科及び専攻科を含む）を有する場合、全ての学歴（授与された学位及び称号を含む）を記入し、それ以外の場合には、最終学歴を記入してください。なお、博士課程において課程の修了に必要な単位を取得後、博士の学位を授与されないまま退学した場合には、「博士課程単位取得後退学」と記入してください。なお、学位の専攻分野については、授与された時期によって表記が異なりますので、正確に記入してください。
 - ・ 過去→現在に時系列に記入してください。
 - ・ 卒業証書、学位記等を確認し、大学の学部、学科及び大学院の研究科、専攻、課程、学位の名称等を正確に記入してください。
 - ・ 高等教育機関（大学院・大学・短期大学・高等専門学校）の入学・編入学・卒業・修了に関して記入してください。留学、中途退学等についても省略せずに明記してください。
 - ・ 看護師学校養成所等も含めて記入してください。
- ② 大学の別科、専攻科については「学歴」欄に、研究生、聴講生等は「職歴」欄に記入してください。
- ③ 学位については、付記された専攻分野の名称及び学位論文の題目を併記してください。
 - ・ 学位、称号等は、学位記を確認の上、正確に記入してください。平成3年の大学設置基準の改正（大綱化）の前後で学位の表記が異なりますので、注意してください。（○○学博士→博士（○○学））
- ④ 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、教員等の資格についても記入してください。この場合、登録番号等も併記してください。外国における資格にあつては、正確に記入するとともに、その資格の内容を日本語で併記してください。
 - ・ 看護師の他、保健師、助産師も含めて記入してください。
 - ・ 資格名の原語も併記してください。資格の内容は端的に記入してください。
- ⑤ 学生としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。
 - ・ 留学先の国名も併記してください。
- ⑥ 外国の大学等の経歴を記載する場合は、大学等の名称や学位等はアルファベットと片仮名を併記し、国名を必ず記載してください。職歴についても同様に扱ってください。

- ⑦ 研究者としての外国の大学や研究機関等への留学歴は「職歴」欄に記入してください。
- ・ 留学先の国名も併記してください。

(「学歴」欄記入例)

学 歴	
昭和〇年〇月	〇〇高等学校卒業
昭和〇年〇月	〇〇看護学校入学
昭和〇年〇月	〇〇看護学校卒業
昭和〇年〇月	看護婦免許（第〇〇号）
昭和〇年〇月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科入学※
昭和〇年〇月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科卒業（〇〇学士）※
	中学校教諭一級普通免許（保健）昭和〇中一級普〇号※
	高等学校教諭二級普通免許（看護）昭和〇高二級普〇号※
昭和〇年〇月	〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇学専攻修士課程入学※
昭和〇年〇月	〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇学専攻修士課程修了※
	（〇〇学修士）※
	「修士論文題名：〇〇〇〇〇〇」
昭和〇年〇月	〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇学専攻博士後期課程入学※
昭和〇年〇月	〇〇国〇〇大学大学院〇〇専攻（大学、専攻等の名称の原語を付記）留学
	（昭和〇年〇月まで）※
昭和〇年〇月	〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇学専攻博士後期課程単位取得後退学※
平成〇年〇月	博士（〇〇学）（〇〇大学）※
	「博士論文題名：〇〇」

※学部学科等の名称、学位名称、資格（登録番号含む）は証明書等を確認し正確に記入してください。

※学位は〇〇学博士又は博士（〇〇学）など、正確に記入してください。

7. 「職歴」欄

- ① すべての職歴（自営業、主婦、無職等を含む）を記入するとともに、職名、職位等についても明記してください。

- ・ 講演や学会発表等を記入する必要はありません。（講演や学会発表は「教育研究業績書（様式第4号その2）」に記載します。
- ・ 非常勤の職歴についても記載してください。

- ② 各職歴について在職期間を明確にし、現職については「現在に至る」と記入してください。

- ・ 年月の欄に始期を記入し、各職歴の末尾に終期を「（昭和〇〇年〇月まで）」又は「（現在に至る）」というように（ ）書きで記入してください。

- ③ 研究者としての外国の大学や研究機関等への留学歴についても記入してください。

- ・ 渡航先国名、大学名、研究機関名等を記載してください。

- ④ 学生としての外国の大学や研究機関等への留学歴については「学歴」欄に記載してください。

- ・ 渡航先国名、大学名、研究機関名等を記載してください。

- ⑤ 担当授業科目に直接関係のある職歴については、できるだけ具体的に記入してください。（例：看護学科の教員で看護師経歴のある者の当該看護師時の職位・勤務病棟等）

職務内容を記述する必要はありません。職歴（職名）を端的に記入してください。

- ⑥ 過去に大学設置・学校法人審議会（旧大学設置審議会を含む）で教員審査を受け、教員の資格があると認められた場合には、当該審査の時期、大学の名称（学部学科名・研究科専攻名を含む）、職位及び担当授業科目の名称（大学院にあっては、判定結果を含む）を記入してください。また、

過去に高等専門学校教員資格の認定を受けた場合には、当該認定に係る時期、高等専門学校の名称、職位及び担当授業科目の名称を記入してください。

- ・ 教員審査とは、大学設置・学校法人審議会（旧大学設置審議会を含む）による審査であり、学内審査は対象外です。届出による設置は、大学設置・学校法人審議会による教員審査はありません。
- ・ 専任・兼任・兼任の別を記入してください。設置認可申請の行われた時期、当該申請の内容によっては、認可申請であっても教員審査が省略されている場合がありますので、確認のうえ記入してください。

・ 大学院にあっては、判定結果（D○合、D合、D可、M○合、M合、M可）を記入してください。専門職大学院にあっては、P可と記入してください。

・ 大学院の判定結果について、平成15年度の申請案件より、講義科目等は「可」、研究指導科目のみ「○合」又は「合」の判定結果となります。それぞれ記入してください。

・ 教職課程の審査を受けている場合は同様に記入してください。

・ 学位授与機構の審査を受けている場合も同様に記入してください。

⑦ 大学教員の職歴については、主な担当授業科目を併記してください。

・ 主なものに係らず、すべての担当授業科目を一つずつ「」で付記してください。

・ 所属学部学科、専任・兼任・兼任（非常勤）の別に記述してください。

・ 大学院における担当授業科目、研究指導があれば必ず記載してください。（研究科・専攻名、修士課程または博士後期課程の別もあわせて必ず記載してください。）

・ 非常勤講師としての職歴についても、担当授業科目を付記してください。

⑧ 研究生、聴講生等は、職歴欄に記入してください。

⑨ 外国での職歴等を記載する場合はアルファベットと片仮名を併記してください。

（「職歴」欄記入例）

職 歴	
昭和○年○月	○○大学大学院○○学研究科研究生（昭和○年○月まで）
昭和○年○月	○○大学○○学部助手（昭和○年○月まで）
昭和○年○月	○○国○○研究所（名称の原語を付記）へ派遣留学（昭和○年○月まで）
昭和○年○月	○○大学○○学部○○学科専任講師 担当授業科目：「○○学」「○○演習」（昭和○年○月まで）
昭和○年○月	○○大学○○学部○○学科専任講師 担当授業科目：「卒業論文演習」（昭和○年○月まで）
昭和○年○月	○○大学○○学部○○学科非常勤講師 担当授業科目：「○○学」（昭和○年○月まで）
昭和○年○月	大学設置・学校法人審議会の教員審査において○○大学○○学部○○学科専任助教授「○○学概論」「○○学演習」の資格有りとは判定
平成○年○月	○○大学○○学部○○学科専任助教授 担当授業科目：「○○学概論」「○○学演習」（平成○年○月まで）
平成○年○月	○○大学○○学部○○学科専任教授 担当授業科目：「○○学概論」「○○学総論」（平成○年○月まで）
平成○年○月	○○国○○研究所客員研究員（名称の原語を付記）（文部省在外研究員）（平成○年○月まで）
平成○年○月	大学設置・学校法人審議会の教員審査において○○大学大学院○○研究科○○専攻（修士課程）専任教授「○○学」「○○学特講」M可、「○○特別研究」M○合の資格有りとは判定
平成○年○月	○○大学大学院○○研究科○○専攻修士課程専任教授 担当授業科目：「○○学」「○○学特講」「○○特別研究」（現在に至る）

（「職歴」欄記入例（看護師経歴等））

職 歴	
昭和○年○月	〇〇立〇〇病院小児病棟看護婦（昭和○年○月まで）
昭和○年○月	〇〇立〇〇病院外科病棟パートタイム看護婦（昭和○年○月まで）
昭和○年○月	〇〇立〇〇病院〇〇病棟主任看護婦（昭和○年○月まで）
昭和○年○月	〇〇立〇〇病院〇〇病棟実習指導者（昭和○年○月まで）
昭和○年○月	〇〇立〇〇病院副看護部長（平成○年○月まで）
平成○年○月	〇〇立〇〇病院看護部長（現在に至る）

8. 「学会及び社会における活動等」欄

① 「現在所属している学会」には、履歴書作成時において所属する学会の名称を記入してください。

・ 所属学会名は正確に記載してください。

② 学会及び社会における活動等のうち、専攻や研究分野等に関連する事項を記入してください。

③ 教育研究上の業績を有する場合、その内容を具体的に記入してください。

④ 「事項」欄は適宜「学会活動」「社会活動」「研究活動」等に小見出しを付け、読みやすく整理し、項目毎に過去→現在の順に時系列で記載してください。

⑤ 「学会活動」には、「現在所属している学会」に記載した学会の入会や理事等の役職等について記入してください。

・ 講演や学会発表等を記入する必要はありません。（講演や学会発表は「教育研究業績書（様式第4号その2）」に記載します。

⑥ 「社会活動」には、社会における活動として、例えば、国・自治体等の審議会、委員会等について記入してください。

⑦ 「研究活動」には、科学研究費補助金等の競争的研究資金の獲得について記載してください。その際、研究費名、研究題名、研究代表者又は研究分担者の別、助成金額を明記してください。

※研究分担者の場合は代表者名を記載してください。

（「学会及び社会における活動等」欄記入例）

学会及び社会における活動等	
現在所属している学会	日本〇〇学会、△△学会
年 月	事 項
昭和○年○月	「学会活動」 日本〇〇学会入会（現在に至る） △△学会入会（現在に至る） 日本〇〇学会理事（現在に至る） 日本〇〇学会第〇回〇〇大会〇〇分科会において座長を務める
昭和○年○月	
昭和○年○月	
平成○年○月	
昭和○年○月	「社会活動」 〇〇県〇〇審議会委員（昭和○年○月まで）
平成○年度～ 平成○年度	「研究活動」 科学研究費補助金（基盤研究C）「〇〇に関する〇〇研究」 研究代表者 研究経費：平成○年度 2,100千円、平成○年度 1,300千円

9. 「賞罰・処分歴等」欄

- ① 「賞罰・処分歴等」の欄には、公的機関、学会、出版社等からの表彰又は職務上の表彰や懲戒処分、研究費の不正受給に係る処分等を記入してください。また、次のいずれかの行為を原因として懲戒処分若しくは分限処分を受けた場合には、処分の内容及びその具体的な事由を必ず記入してください。

- ・学生に対するセクシュアルハラスメントを含む性暴力等
- ・捏造、改ざん、盗用その他の研究上の不正行為

- ② 本人の専攻、研究分野に関係する主要なものを記入してください。
 ③ 教育研究上の受賞がある場合は、受賞年月、受賞内容、授与団体等を記入してください。
 ④ 賞罰がない場合は、「なし」と記入してください。

（「賞罰」欄記入例）

賞 罰	
昭和〇年〇月	日本〇〇学会〇〇賞（〇〇〇〇〇〇〇〇の功績について）

10. 「現在の職務の状況」欄

- ・ 上段の「現在の職務の状況」の欄には、申請時現在における職務の状況について記入してください。
- ・ 「職名」については、大学等の教員の場合は、「教授」、「准教授」等の職位を記入してください。それ以外の職に従事している場合は、「取締役」、「理事」等の職名を記入してください。職名がない場合は「－」を記入してください。
- ・ 勤務状況については、大学等の教員の場合は、担当授業科目を記入してください。それ以外の職に従事している場合は、職務の内容を簡潔に記入してください。
- ・ 「職歴」欄に「（現在に至る）」と記入した事項についてすべて記入してください。
- ・ 「職名」については、当該大学等の専任の教員が、2以上の学部の学科、大学院の専攻にわたり授業を行う場合、1の学科及び1の大学院の専攻に限り専任とし、その他は兼任とさせていただきます。当該専任大学以外の大学等の授業を担当している場合は、兼任（非常勤）となります。
- ・ 常勤の職については、「教員名簿〔教員の氏名等〕」（別記様式第3号（その2の1又はその2の2）の「現職」欄と整合するようにしてください。

（「現在の職務の状況」欄記入例）

現在の職務の状況			
勤 務 先	職 名	学部等又は所属部局の名称	勤務状況
〇〇大学	教授	△△学部□□学科	〇〇論
静岡市駿河区〇〇			〇〇演習 〇〇実習
□□法律事務所	非常勤	弁護士	1日／週 〇〇の業務
静岡市葵区〇〇			
（財）◇◇	非常勤	理事	1日／週 〇〇の業務
浜松市中区〇〇			

11. その他

応募書類として提出するすべての書類に記載された内容が事実と相違なく、虚偽の記載があった場合には、採用取消や懲戒処分等の対象となり得ることについて確認のうえ、署名・押印してください。（自署の場合は押印を省略しても構いません。）

Ⅱ 「教育研究業績書」

- ① 公募文で発行予定の論文、著書の記入を認めている場合において、「研究業績等に関する事項」に、書類の作成時において未発表のものを記入する場合には、出版社・学会等の発行予定証明書（様式任意）を添付すること。
- ② 「氏名」の欄については、印鑑登録証明書の記載と同じ氏名を記名してください。印鑑登録証明書を有さない者については、旅券（パスポート）にした署名と同じ文字及び書体で自署してください（押印は不要）。
 - ・押印については、やむを得ない事由があるときは、省略することができる。この場合において、「氏名」は、旅券にした署名と同じ文字及び書体で自署すること。
 - ・原則全ての研究業績を記入してください。
 - ・業績が余りに多数あつて（例えば、数百点以上）、担当授業科目等に関連する主要なもの以外を省略する場合には、教育研究業績書の末尾に「その他、著書○、学术论文○、その他○」と本数のみ記入してください。この場合、当該省略の業績は、審査対象とはなりませんので、ご注意ください。

1. 「研究分野」及び「研究内容のキーワード」欄

- ① 「研究分野」の欄には、平成29年度まで使用されていた科学研究費補助金の「系・分野・分科・細目表」の分科レベルの名称又は「科学研究費助成事業 審査区分表（総表）」の中区分の名称（「およびその関連分野」は省略可）を用いて、研究分野の主なものを3つ以内で記入してください。「研究内容のキーワード」の欄には、同表の細目又は「科学研究費助成事業 審査区分表（総表）」の小区分を参考に、研究内容を表すキーワードを5つ以内で記入してください。なお、各表に該当がない場合は、適宜記入してください。
- ② 専攻分野についての実務等の知識や経験を有する者（「大学設置基準」第14条第3号及び第6号、第15条第5号、第16条第2号並びに第16条の2第3号に該当する者）としての審査を希望する場合には、「研究分野」の欄に「○○に関する実務」と記入し、「研究内容のキーワード」の欄に職務内容を表すキーワードを5つ以内で記入してください。

（「研究分野」及び「研究内容のキーワード」欄記入例）

研究分野	研究内容のキーワード
教育学	教育社会学、高等教育論、大学経営

（「研究分野」及び「研究内容のキーワード」欄記入例（法律関係の実務家））

研究分野	研究内容のキーワード
法律（刑法）に関する実務	刑法、刑事訴訟法、刑事事件実務

2. 「教育上の能力に関する事項」及び「職務上の実績に関する事項」欄

- ① 「事項」の項には、各区分に該当する担当予定授業科目に関連する教育上の能力及び職務上の実績に関する事項を過去から現在まで簡潔に記入してください。
- ② 「年月日」の項には、当該事項に係る実施時期、発表時期、従事期間等を記入してください。
- ③ 「概要」の項には、当該事項に係る内容の概要のほか、当該活動における地位や役割、成果も記入してください。
- ④ 「概要」の欄には、教育上の能力に関する事項及び職務上の実績に関する事項について、教育上の能力に関する事項の各欄、職務上の実績に関する事項の各欄に関する事項ごとに少なくとも200字で具体的に記入してください。

- ⑤ 実務歴のある方は、実務の経験等について該当箇所に詳細に記入してください。
- ⑥ 資格の証明書、雇用者や各種団体からの表彰・推薦文書等を必要に応じて添付してください。

(1) 教育上の能力に関する事項

① 教育方法の実践例

- ・ 授業外における学習を促進する取組、授業内容のインターネット上での公開等
- ・ 司法研修所等の教育機関における教育経験
- ・ マルチメディア機器を活用した授業方法
- ・ 教育方法に着目し、実践した教育方法にタイトルをつけて事項欄に示し、概要欄にその実践を実施した大学、学部、学科、授業科目名等と実践方法の具体的内容とその効果等を記述してください。

② 作成した教科書、教材

- ・ 授業や研修指導等で使用する著書、教材等
- ・ 授業や研修指導等で教科書として使用したものについて、使用した大学、学部、学科、授業科目名、教材の内容、その教材の効果について記述してください。
- ・ 後の「著書、学術論文」との重複も可。ただし概要の記述は書き分けてください。

③ 教育上の能力に関する大学等の評価

- ・ 採用決定の際等における評価内容
- ・ 各大学における自己点検・評価での評価結果
- ・ 学生による授業評価、教員による相互評価等の結果
- ・ 採用決定時の評価、自己点検・評価での評価、教員同士の相互評価は教育面で高い評価（教育上の評価）を受けた事実（その事由と評価内容）を記述してください。
- ・ 学外の評価機関等が行った評価
- ・ 上記以外で、学長、学部長、諸機関等が行った評価（客観性を持ったものについて記載）等
- ・ 大学設置・学校法人審議会における教員審査を受けた場合も記載してください。
- ・ 公的あるいは客観的な評価について記述してください。（大学が行った自己点検評価は含まれますが、単なる自己評価（裏づけのないもの）は含めません。）

④ 実務の経験を有する者についての特記事項

- ・ この欄は、原則として企業・施設等において専門職として従事した実務歴・臨床歴を有する方について記載してください。
- ・ この欄は教育に関する事項（講義、講習、講演等の指導的な活動）について記述してください。

※実務家の方の実際の職務については、後段「職務上の実績に関する事項」で記述してください。

(記載事項の例)

- ・ 大学から受け入れた実習生等に対する指導（看護・福祉実習、企業実習等）
- ・ 日本薬剤師センター等の職能団体の依頼による研修指導等
- ・ 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修
- ・ 大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等

⑤ その他

- ・ 大学教育に関する団体等における活動、教育実績に対する表彰等
- ・ 国家試験問題の作成等
- ・ 修士又は博士論文指導実績がある場合（大学より正式に任命されている場合）「学位（修士・博士）論文指導実績」等と事項欄に記載し、概要欄には指導テーマを記載してください。論文作成の協力者としての場合は、「学位論文作成支援」や「学位論文作成協力」などとしてください。
- ・ 修士又は博士論文の審査に関わった実績（主査、副査など）があれば、「学位（修士・博士）論文審査実績」等として記述してください。

※上記にとらわれず、1から4に該当するもの以外の事項について幅広く積極的に記載してください。

(2) 職務上の実績に関する事項

① 資格、免許

- ・ 医師、歯科医師、薬剤師、獣医師、看護師、教員等の資格で担当予定授業科目に関連するもの
- ・ 学位についても記入してください。
- ・ 職歴欄の資格の記述と整合させてください。

② 特許等

- ・ 特許、実用新案等で担当予定授業科目に関連するもの
- ・ 意匠登録を含みます。

③ 実務の経験を有する者についての特記事項

- ・ この欄は、原則として企業・施設等において専門職として従事した実務歴・臨床歴を有する方について記載してください。
- ・ 職務の状況（実務歴・臨床歴についてその仕事の内容）を詳しく記述してください。なお、実習指導などの教育に関する事項は上記、前述「教育上の能力に関する事項」欄に記述してください。また、研究助成（科学研究費補助金等）などで報告書になっているものは、「研究業績等に関する事項」の「その他」に報告書の項目を設けて記述してください。

※実務経験の記載方法については、「職歴」欄に記入した実務歴に関して、担当する授業科目に対応させて、下記の事項を参考に記載してください。

◇ 従事した期間

◇ 職務の内容（どのような職務に就いて、どのような役割を果たしたか）

◇ 成果、結果

(記載事項の例)

○大学との共同研究

○訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の担当実績

○各種審議会・行政委員会、各種ADR（裁判外紛争解決手続）等の委員

○行政機関における調査官等の官職

○研究会・ワークショップ等での報告や症例発表

○調査研究、留学、海外事情調査等

○上記を裏付ける報告書、手引書、マニュアル、雑誌等

○企業、官公庁等の研究者の場合

- ・ 開発した新製品・製法、作物等の新品種などの概要
- ・ 大学との共同研究による研究実績がある場合、その概要、成果、当該研究者の役割

○企業・団体等の関係者の場合

- ・ 国際援助・開発、先端技術、国際金融等高度に専門的な実務に従事した実績
- ・ 役職経験のある場合はその旨記述

○情報技術関係者の場合

- ・ コンピュータに係る職務歴（職務上のコンピュータ活用法、ソフト・システム開発歴）

○マスコミ関係者の場合

- ・ 執筆した記事の概要
- ・ 制作した番組の概要

○医師や看護師等医療技術者の場合

- ・ 症例研究会での発表等の活動

○福祉その他社会的活動の関係者の場合

- ・ 参加した活動や団体の名称、活動内容・期間、本人の当該活動における地位

○スポーツ等実技関係者の場合

- ・ 指導者としての経歴・実績・資格

○芸術関係者の場合

- ・ 作品の概要
- 博物館、美術館等関係者の場合
 - ・ 担当した展覧会の概要
 - ・ 執筆・監修した展覧会図録の概要

④ その他

○職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等

- ・ 職能団体等の名称、代表者、目標、業務
- ・ 評価・推薦の内容

○論文の引用実績等

○大学教員の場合

- ・ 学内の役職（部局長等）や学内業務（学内委員会等）の経験

※上記以外の事項や資料についても、必要に応じて、幅広く記載してください。

3. 「研究業績等に関する事項」の欄

※公募文で発行予定の論文、著書の記入を認めている場合において、「研究業績等に関する事項」に、書類の作成時において未発表のものを記入する場合には、出版社・学会等の発行予定証明書（様式任意）を添付してください。

- ・ 美術関係等の業績として作品集を提出する場合は、別途1部提出してください。なお、作品集については、審査終了後に返却が可能ですので、提出時にその旨を申し出てください。

(1) 「著書、学術論文等の名称」欄

- ① 「著書、学術論文等の名称」の項について、研究等に関連する主要な業績を「（著書）」、「（学術論文）」、「（その他）」の項目に適切に区分し、各業績を発表順に通し番号を付して記入してください。
- ② 当該著書、学術論文等が外国語の場合、著書等名（共著の場合は本人担当部分の章、節、題名も含む）はその外国語で記入するとともに、（ ）書きで訳文を記入してください。当該著書等の概要は日本語のみで構いません。
 - ・ 原則的に全ての研究業績を記入してください。
 - ・ 著書、学術論文等は、（著書）（学術論文）（その他）の3つに区分し、当該見出しを記入の上、その区分ごとに番号（1. 2. …）を付して、発表順（過去→現在）に時系列に記入してください。
- ③ （著書）
 - ・ 著書については、（「名称」欄に）書名を記入してください。
 - ・ 著書は、出版された書籍とし、シリーズもの（全集、講座、叢書等）の1冊である場合は、表題の下段に（ ）書きでシリーズ名及び当該巻数を付記してください。
- ④ （学術論文）
 - ・ 学術論文については、国際学術雑誌、学会機関誌、研究報告等に学術論文として発表したものの題名を記入してください。学位論文については、その旨を明記してください。
 - ・ 当該論文の表題の下段に「（修士論文）」又は「（博士論文）」と（ ）書きで明記してください。
 - ・ 査読付きの論文については、題名の後に「（査読付）」と記載してください。
 - ・ 当該論文が外国語で記されている場合、題名はその外国語で記入するとともに、（ ）書きで訳文を記入してください。当該論文の概要は日本語のみで構いません。
- ⑤ （その他）
 - ・ その他については、総説、学会抄録、依頼原稿等にあつては当該記事のタイトルを、報告発表、座談会、討論等にあつては当該テーマを記入してください。

- ・「総説」「研究報告書」「翻訳」「辞典」「白書」「年鑑」「国際学会抄録」「国内学会抄録」「学会発表」等を記載してください。その際、それぞれ適宜区分し、小見出しを記入してください。
- ・「翻訳」は、その他に含め、原著者名、邦訳の表題、原語の表題を記入してください。
- ・「作曲」に係る業績については、出版の日付と発行所及び初演の日付と会場を記載してください。（再演については不要です。）
- ・国際学会抄録、国際学会発表等、外国語の業績は、題名はその外国語で記入するとともに、（ ）書きで訳文を記入してください。当該論文の概要は日本語のみで構いません。

（２）「単著、共著の別」欄

- ① 「単著・共著」の項には、当該著書等に記載された著作者が単独である場合には「単著」、著作者が複数いる場合には、監修、編集、編著、共著、部分執筆等の関わり方によらず「共著」と記入してください。なお、学会発表等の場合は「－」を記入してください。
- ② 著書業績について、１冊の本を数人で執筆した場合、当該部分は単独執筆であっても共著として整理してください。

（３）「発行又は発表の年月」欄

- ① 「発行又は発表の年月」の項には、当該著書等の発行又は発表の年月を記入してください。
- ② 学位論文は、大学から学位を授与された年月を記入してください。

（４）「発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称」欄

- ① 著書については、発行所を記入してください。
- ② 学術論文等については、発表雑誌等の名称、巻・号、掲載ページ等を明記してください。
- ③ 報告発表等の場合には、学会大会名、開催場所等を明記してください。
- ④ 「学会発表」の、学会大会名、開催場所等は「〇〇学会第〇回大会（於〇〇大学）」等と記入してください。
- ⑤ 「学位論文」は、学位を授与された大学名を記入してください。
- ⑥ 学術論文は掲載部分の頁（p. 〇〇～p. 〇〇など）を明記してください。

（５）「概要」欄

- ① 当該著書等の概要を２００字程度で記入してください。
- ② 著書、学術論文等の概要及び頁数について、各著書、学術論文等ごとに明確かつ簡潔に記入してください。
 - ・担当予定の授業科目の概要（講義等の内容）と教育研究業績書の概要とが、キーワード的、内容的に整合するように留意して記入してください。
 - ・上記の２００字程度という目安は、厳密なものではありませんので、必要にして十分な内容を記述してください。
- ③ 当該著書等が共著の場合には、当該著書の概要（２００字程度）のほか、以下の事項を記入してください。
 - ・ 本人の担当部分の章、節、題名、掲載ページ（p. 〇〇～p. 〇〇）（本人の担当部分を抽出できない場合は、これらの代わりに担当部分を抽出できない理由を記入すること）。（例：共同研究につき本人担当部分抽出不可能）
 - ・ 本人の担当部分を頁数等定量的に抽出するのが困難な場合であっても、安易に担当部分抽出不可能とせず、「研究の〇〇〇〇部分を担当」等定性的な記述でも結構ですので、できるだけ本人担当部分を積極的かつ明確に記載してください。
 - ・ 本人の氏名（下線を付すこと）を含む著作者全員の氏名（多数にわたる場合は主要な共著者の氏名）（当該著書等に記載された順に記入すること（例 編者：△△△△、共著者：〇〇〇〇、□□□

□、××××))。

- ・ 著書等で共著の場合で本人担当部分が章や節などで分けられている場合は、章節名とその題目にあわせて掲載ページを記入してください。
- ・ 学術論文の共著者名は、本人氏名を含め執筆順に記載してください。
- ・ 著作者氏名列挙の際は、本人氏名にアンダーラインを付してください。
- ・ 共著者があまりに多数の場合（例えば、数十人以上）は、本人を含め代表的な人を10名程度記載し、残りは「他○名」としてください。

④ 著書及び学位論文は、判型・総頁数（A5判 全254頁など）を明記して下さい。

⑤ 当該著書、学術論文等が外国語の場合、概要は日本語のみで構いません。